

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営学Ⅱ		（ NGB14B ）
講義名（コード）	経営学ⅡA		（ NGB14BA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	企業経営の仕組みや取り巻く環境を理解する
全体の内容と概要	ビジネス視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の重要性を理解できる	企業が成り立ち、成長するために必要な要素を4つに分けて考える
2	経営資源（ヒト）を理解できる	人材にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
3	同上	ワークショップ
4	経営資源（モノ）を理解できる	設備や商品にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
5	同上	ワークショップ
6	経営資源（カネ）を理解できる	お金の流れにフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる
7	同上	損益計算書を使ってみる
8	同上	ワークショップ
9	経営資源（情報）を理解できる	経営に必要な情報とは。情報を企業の経営に役立てる
10	同上	AIに触れ、生成AIで自分の自己紹介を作ってみる
11	同上	ワークショップ
12	学んだことをアウトプットできる	業種・業界別にヒト・モノ・カネ・情報の違いをまとめる
13	学んだことをアウトプットできる	ワークショップ
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	1年間のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は経営管理の実務経験を活かし、会社活動の原理・組織・財務・戦略・管理などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	プロジェクト演習Ⅱ		（ NGB14D ）
講義名（コード）	プロジェクト演習ⅡA		（ NGB14DA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	様々なチームビルディングをとおして、チームワークに必要なコミュニケーション能力の向上を目指す
全体の内容と概要	①コミュニケーション能力を高めるための学習 ②演劇ワークショップで仲間との協働作業学び
授業時間外の学修	異文化への理解を深めておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	プロジェクト演習について理解できる	ガイダンス
2	コミュニケーションとはなにか理解ができる	コミュニケーションとはなにか。日本の以心伝心、コミュニケーションの必要性、問題点を学習する
3	同上	コミュニケーションを分解して、様々なコミュニケーション能力について学習する
4	聴く技術について理解ができる	傾聴とは。傾聴のスキルを高める方法を学習する
5	同上	ロールプレイング
6	非言語のコミュニケーションについて理解ができる	自分の魅力を高める方法を学習する
7	同上	ロールプレイング
8	話しについて理解ができる	声の要素を要素を理解し、話し方について学習する
9	同上	ロールプレイング
10	汲み取ることを理解ができる	ハイコンテキストとローコンテキストについて学習する
11	演劇ワークショップについて理解ができる	演劇とは。流れと演出について学習する
12	同上	ワークショップ
13	同上	ワークショップ
14	まとめと解説	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング基礎Ⅱ		（ NKT15R ）
講義名（コード）	マーケティング基礎ⅡA		（ NKT15RA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	身近な業界や企業からマーケティングを考え、マーケティングメソッドを使えるようにする
全体の内容と概要	マーケティング的思考をしっかりと身に付けビジネス視野を広げる。 理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容を理解できる	後期の授業テーマと流れの解説
2	マスマーケティングとダイレクトマーケティングの違いを理解できる	マスマーケティングとダイレクトマーケティングとは？ またその違いとは？
3	同上	ケーススタディ
4	ターゲティングを理解できる	STPマーケティングの概念を学ぶ
5	ニーズとウォンツを理解できる	ニーズとウォッチと何か。業界別のニーズとウォッチ
6	デジタルマーケティングを理解できる	デジタルマーケティングの種類とそのこの効用
7	同上	広がるSNSマーケティングの活用方法
8	同上	インフルエンサー・マーケティングの注意点
9	同上	ロケーション・インテリジェンス、生体認証など、マーケティングの活方法
10	同上	マーケティングとプライバシーの保護
11	商品開発を理解できる	マーケティングの4Pとは。商品開発に役立てる。
12	同上	業種別のマーケティングの4Pを考察
13	同上	マーケティングの4Pのケーススタディ
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	1年間のフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	サブノート
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員は企業コンサルの実務経験を活かし、身近な事例を用いてマーケティング基礎知識を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナーⅡ		（NKT16F）
講義名（コード）	ビジネスマナーⅡA		（NKT16FA）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスにおける基本的マナーを習得し、自分の意思をうまく伝達し、他社との円滑なコミュニケーションを図ることができることを目的とする
全体の内容と概要	社会における様々なTPOに応じたマナーを実例を基に学び、またそれを実践する
授業時間外の学修	日常生活の中での実践並びに反復
履修上の注意事項等	授業前段は講義による知識習得、後段はグループワークや演習を中心に進める

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率70%以上で期末試験の受験対象者とし、授業への参加態度や学習意欲も評価の対象とする。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション 学習意図が理解できる	【講義】本授業の意図と習得する知識の再確認 【演習】クイズ・グループワーク・復習ワーク
2	社外のマナー① 会社外のルールが理解できる	【講義】社外の人脈形成・名刺の意味・雑談の重要性 【演習】クイズ・グループワーク・発表
3	社外のマナー② 会社外のルールが理解できる	【講義】様々なシーンにおける席次・案内と見送り 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
4	社外のマナー③ 会社外のルールが理解できる	【講義】面談時におけるお茶の出し方と飲み方・訪問時のマナー 【演習】クイズ・グループワーク・発表
5	社外のマナー④ 会社外のルールが理解できる	【講義】営業活動の基本・派遣と出向の考え方 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
6	ビジネススキル① ビジネススキルの基本が理解できる	【講義】敬語の使い方・話す言葉と書く言葉の違い 【演習】クイズ・グループワーク・発表
7	ビジネススキル② ビジネススキルの基本が理解できる	【講義】漢字の使い方・ビジネスメールの形式 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
8	ビジネススキル③ ビジネススキルの基本が理解できる	【講義】ビジネス文章の形式・はがきと封筒の使い方と書き方 【演習】クイズ・グループワーク・発表
9	ビジネススキル④ ビジネススキルの基本が理解できる	【講義】電話の受け方・電話の受け方 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
10	日常生活のマナー① 日常生活でのマナーが理解できる	【講義】社内情報の取り扱い・SNSの利用に関するマナー 【演習】クイズ・グループワーク・発表
11	日常生活のマナー② 日常生活でのマナーが理解できる	【講義】犯罪に巻き込まれた場合・プライベートでのトラブル対処 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
12	日常生活のマナー③ 日常生活でのマナーが理解できる	【講義】金銭の貸し借り・ギャンブル依存への対応 【演習】クイズ・グループワーク・発表
13	日常生活のマナー④ 日常生活でのマナーが理解できる	【講義】日本の法律（憲法）・基本的人権・人種や宗教 【演習】クイズ・グループワーク・ケーススタディ
14	前期末テスト	後期授業で学んだ内容の確認テスト（筆記・実技）
15	フィードバック・まとめ	テスト結果のフィードバックと回答解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	JMAM 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	なし
備考	理解を深めるための独自資料を、内容に応じ用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	観光ビジネス論Ⅰ		（ NGB14H ）
講義名（コード）	観光ビジネス論ⅡA		（ NGB14HA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	塚川 剛	時間数	30
成績評価教員	塚川 剛	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	卒業後に観光業界に就職するために必要な応用知識や上級スキルを身につける。急増するインバウンド、オーバーツーリズム、人出不足への対応と課題について提言できる。
全体の内容と概要	日本の観光業界を理解し、国内主要観光地について概略する。
授業時間外の学修	地元の日本人、できれば観光関係者と友達になり、日本語で情報交換する。
履修上の注意事項等	ホワイトボードに日本地図や長野県地図を毎回掲示するので、位置関係を理解する。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	卒業後の進路について説明ができる。	前期の学習成果や上達の度合いを確認し、卒業後の進路のアドバイスをする。夏休み中の活動について話してもらう。
2	観光産業を説明できる (①)	日本や海外の航空会社の理解をさらに深める。
3	観光産業を説明できる (②)	JRや新幹線、私鉄や地下鉄、地方鉄道についてさらに理解を深める
4	観光産業を説明できる (③)	バス、タクシー、トラック、船舶（クルーズ）についてさらに理解を深める。
5	観光産業を説明できる (④)	ホテル、旅館、民泊など宿泊関係についてさらに理解を深める。
6	観光産業を説明できる (⑤)	大手旅行社、旅行代理店、飲食、サービス業についてさらに理解を深める。
7	①～⑤を概略できる。	①から⑤までを復習して、少し複雑な旅行計画を作成させ発表してもらう。
8	国内観光地を理解できる (⑥)	直近で最も人気のあるスポットや新しい観光施設を理解する。
9	国内観光地を理解できる (⑦)	都内主要観光地、新しい観光スポットを理解する。
10	国内観光地を理解できる (⑧)	関西主要観光地、新しい観光スポットを理解する。
11	国内観光地を理解できる (⑨)	中京主要観光地、新しい観光スポットを理解する。
12	国内観光地を理解できる (⑩)	⑦～⑨以外の主要観光地、新しい観光スポットを理解する。
13	⑥～⑩を概略できる	学習者が行きたい観光地、紹介したい観光施設やグルメを発表してもらう。履歴書の書き方、面接の受け方の練習など。
14	まとめとテスト	後期で学んだ内容を中心にしたテストを実施する。
15	フィードバック	試験用紙返却、成績や結果について講評、質疑応答など。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	講師作成のパワポ資料。
参考文献・資料等	観光パンフ、時刻表、観光白書等のコピー配布。
備考	柳町通りの商店街の方が観光業に就職した留学生OBの方を招聘して、前期と後期に各1回45分程度話をしてもらう。例)「美味(おい)だれ」のPRに取り組んだ池松さん。

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	スピーチ&プレゼンテーションⅡ		（ NGB14J ）
講義名（コード）	スピーチ&プレゼンテーションⅡ A		（ NGB14JA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	パワーポイントを使いながら人前で自分の意見を発表する事ができる。見ている人がわかりやすいビジュアルツールを作成しプレゼンテーションを行う。様々な場面のビジネスシーンで役立てることができる。
全体の内容と概要	作成したPPTを使用し何度もプレゼンテーション練習を行う。PPTを作成する事だけでなく、正しい日本語を使って分かりやすい説明を行えるように話し方の練習もする。
授業時間外の学修	授業内だけでは発表準備が間に合わないため、家での練習も必要になる。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	プレゼンテーションとは何かがわかる	プレゼンテーションと何か。どんな場面でどのように使用するのか。例を見ながら正しいプレゼンテーションの方法を学ぶ。
2	プレゼンテーションをする前の準備の方法がわかる。	プレゼンテーション作成のステップ、注意する事などを学ぶ。PPTの使い方を学ぶ。
3	簡単なPPTを作成することができる。	写真を使った自己紹介PPTを作成する。
4	写真を使ったプレゼンができる。	PPTを使って自己紹介をする。
5	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンとは何かがわかる。	通信販売のプロモーションの方法とは何か。いくつかの動画を見て方法を見比べてみる。
6	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	身近な商品を使ってプロモーションをしてみる。
7	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	PPTを使って顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える。
8	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
9	マーケティング（プロモーション）目線でのプレゼンができる。	新商品のプロモーションを発表する。
10	グラフの作成ができる。	簡単なデータをもとに違う種類のグラフを作成する。
11	国際問題についての現状を理解することができる。	自分の興味のある現在起こっている国際問題について調べ、現状・問題の原因についてまとめる。
12	国際問題についての現状を理解することができる。	問題についてのデータを検索し、グラフ等を使ってわかりやすくPPTにまとめる。自分の意見を交えた問題の解決法を考える。
13	国際問題についてPPTを使い発表を行うことができる。	作成したPPTを使い発表練習を行う。
14	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。
15	まとめと解説	期末テスト プレゼンテーション発表 クラスメートからの評価をもらう。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	簿記Ⅱ		（ NGB14F ）
講義名（コード）	簿記Ⅱ A		（ NGB14FA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株）歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記初級・3級検定受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習していきます
全体の内容と概要	テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚え、模擬問題を練習し検定対策をしていきます
授業時間外の学修	前期の内容のほかに新しい勘定科目や書式、計算問題が出てきます しっかり復習して覚えていきましょう
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも受験が出来ますので受験日を考えて学習してってください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	合計残高試算表による 前期内容復習と検定問題の理解	合計残高試算表の作成・検定試験の内容説明
2	取引と記帳について理解する	日々の帳簿記入 商品売買（掛け取引について）
3	商品売買の処理について 理解する	商品売買の処理① 仕入返品・売上返品・引取運賃・発送費・前払金・前受金
4	消費税・税金について理解する	商品売買の処理② 消費税ほか税金について
5	現金預金・手形について 理解する	手形取引・小切手の扱い、電子記録債権・債務について
6	債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する	その他の債権と債務① 貸付金・借入金・未収入金・未払金
7	債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する	その他の債権と債務② 立替金・預り金・仮払金・仮受金
8	固定資産について理解する	有形固定資産の取得・売却・減価償却
9	純資産（資本）の仕訳を 理解する・収益と費用復習	資本金の増加・減少、収益・費用となる勘定科目の確認
10	合計残高試算表問題の解答法を 理解する	合計残高試算表の作成・問題の解き方
11	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第1回
12	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第2回
13	検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する	本試験シミュレーション問題 第3回
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	土日で合格（うか）る日商簿記初級
参考文献・資料等	他テキスト、問題集よりの抜粋プリント 簿記初級サンプル問題 操作体験版なども使いパソコンで操作する試験に慣れていきます
備考	担当教員はPCスキル及び簿記の実務経験を活かし、日商簿記初級～3級レベルの 授業を展開する

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	異文化理解 I		（ NKT15G ）
講義名（コード）	異文化理解 I G		（ NKT15GG ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする
全体の内容と概要	各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう
履修上の注意事項等	発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	異文化を理解する目的を改めて知る	それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する
2	異文化摩擦について理解できる	異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく
3	自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る	グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する。
4	非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し、考察する	アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する
5	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする
6	様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる	催事についての発表
7	様々な国の生活についてわかるようになる	様々な国の人々の生活をビデオでみる（家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など）各自興味がある国について調べてまとめる
8	様々な国の生活についてわかるようになる	クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる
9	様々な国の生活についてわかるようになる	自国の生活について国別に分かれて発表する
10	世界の衣食住の歴史について知ることができる	日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる
11	世界の衣食住の歴史について知ることができる	自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる
12	世界の衣食住の歴史について知ることができる	衣食住発表準備
13	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
14	まとめと解説	期末テスト（衣食住の発表）
15	まとめと解説	今までの授業を通じてのまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	SNS		（ NKT13T ）
講義名（コード）	SNS		（ NKT13TX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	梶原 優輝	時間数	30
成績評価教員	梶原 優輝	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	SNS等を用いて自分の伝えたい情報を分かりやすく発信できるようにする
全体の内容と概要	自身でテーマを設定したり、決められたテーマに沿って制作した映像をオンラインにアップし分析・考察する
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	映像の活用方法をそれぞれが見出し方針を決める	前期の動画マーケティングのおさらいと後期の方針の確認
2	SNSについて知識を深める	SNSとは
3	映像を制作する目的や方向を考えることに意識を向ける	映像のテーマを考えてみよう
4	メッセージが伝わる映像の組み立て方を考える	映像の構成を考えてみよう
5	決められた段取りに沿って動画を撮影することの重要性を理解する	制作(動画撮影)
6	決められたテーマや伝えたい情報を意識しながら映像を編集する	制作(動画編集)
7	考えた構成通りのものができているか、撮影素材の大切さを理解する	制作(動画編集～書き出し)
8	計画して制作した映像を観て流れを再確認する	発表・講評
9	指定された目的を達成する映像を制作するために企画・スケジュールリングする	映像制作の依頼を受けてみよう
10	撮影に必要な機材やセッティングについて計画する	企画を進行する計画を立てよう
11	時間内に準備～撤収	制作(動画撮影)
12	役割分担する等、グループワークの練習	制作(動画編集)
13	映像をチェックし目的が達成されているか再確認する	制作(動画編集)
14	筆記試験・制作物提出等	期末テスト(制作物提出+映像制作への理解度チェックのための筆記試験)
15	総評	テストフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Webマーケティング基礎Ⅱ		（ NKT15N ）
講義名（コード）	Webマーケティング基礎Ⅱ A		（ NKT15NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	敦賀 由美子	時間数	30
成績評価教員	敦賀 由美子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デザインツール「CANVA」を使用し、動画作成の基本を学び、視覚的に魅力的で効果的なショート動画を作成するスキルを身につける。
全体の内容と概要	CANVAを使用して、アニメーション・フォトムービー・動画の基本的な制作方法を学び、企画、撮影、編集したセルフプロデュースショート動画の制作に取り組む。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	基本操作の復習	SNS投稿画像とキャプション制作
2	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
3	アニメーション効果の習得	フェードイン、スライドイン、パン効果、タンブル、ストンプなどの効果を使用したショート動画の制作
4	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
5	ショート動画の作成	ニーズに合わせ、拡散効果を付加したSNS投稿用ショート動画の制作
6	セルフプロデュース ショート動画①素材撮影	街や観光名所を撮影する（動画・静止画）
7	セルフプロデュース ショート動画②企画	撮影した素材に合わせて動画のストーリーを企画、絵コンテ、キャプションを考える
8	セルフプロデュース ショート動画③動画制作	企画に沿って動画を制作
9	セルフプロデュース ショート動画④BGM・効果音	動画に合わせて音を挿入する
10	セルフプロデュース ショート動画⑤サムネイル画像	サムネイルが与える動画への効果を学び、動画を完成させる
11	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
12	セルフプロデュース ショート動画⑥発表	セルフプロデュースショート動画の発表と評価・感想
13	期末テスト	成果物制作
14	期末テスト	成果物制作・提出
15	フィードバック	テスト内容に関するフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社
参考文献・資料等	①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	英語資格対策Ⅱ		（ NKT15D ）
講義名（コード）	英語資格対策Ⅱ A		（ NKT15DA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	英検準2級以上に合格する。
全体の内容と概要	準2級取得のための対策と問題に取り組む。
授業時間外の学修	「でる順パス単 」から毎週50単語ずつ覚えてくる。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	単語601～650 準2級の過去問題に挑戦する	自分の現在の實力を知り、後期に力を入れるべき箇所を知る。
2	単語651～700 / listeningの特徴 がわかるようになる	英検listeningの特徴を知り、問題に取り組む。
3	単語701～750/聞き取れないと ころが聞けるようになる	過去問のlisteningに挑戦し聴きとれない部分を重点的に繰り返し聞く。
4	単語751～800 準2級の過去問題に挑戦する	準2級の過去問題集からの長文を解き、自分の弱点を知る。
5	単語 801～850 / 長文の読み方や出 題傾向がわかるようになる	英検長文の特徴を知り、時間内に読む練習をする。
6	単語851～900 準2級の過去問題に挑戦する	後期最初の授業時と比較し、自分の進み具合を知り勉強法を考える。
7	単語901～950 / 作文の書き方が 理解できるようになる 1	文章を書く際の構成を学ぶ。
8	単語951～1000 / 作文の書き方 が理解できるようになる 2	与えられたトピックを使って自分の意見を書いてみる。
9	単語1001～1050 準2級の過去問題に挑戦する	listening・穴埋め・長文・作文を時間内に行う。
10	Speakingのテストの構成を理解 することができるようになる	Speakingのテストの構成を理解し、どのように受け答えするかを学ぶ。
11	面接の練習をし、自信をもって 受け答えができるようになる	面接の練習をする。
12	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
13	総復習	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	英検準2級でる順パス単、肘井学のゼロから英文法
参考文献・資料等	英検準2級過去問集（2025年度版）、英検準2級総合対策教本
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス英語Ⅳ		（ NKT24B ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅣB		（ NKT24BB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、スピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	【海外出張】ホテルでのやり取りができるようになる	ホテルでのやり取りの仕方を学び練習する。
2	【海外出張】レストランで注文ができるようになる	レストランでの注文の仕方を学び練習する。
3	【海外出張】交通機関の利用・食事の買い出し等ができるようになる	交通機関の利用や食事の買い出しなどを練習する。
4	1～3回目 【海外出張】 の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	【打ち合わせ】商談を行えるようになる	商談の仕方を学びペアで練習する。
6	【打ち合わせ】お客様の予約を取れるようになる	お客様の予約の取り方を学びペアで練習する。
7	同僚とスモールトークすることができるようになる	同僚とスモールトークできるように練習する。
8	5～7回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	苦情を言うことができ、対処することができるようになる	苦情の伝え方と対処方法を学び練習する。
10	面接の対応ができるようになる	面接対応の仕方を練習する。
11	仕事を依頼し、支持することができるようになる	仕事を依頼し、指示できるようになる練習をする
12	9～11回目の復習	様々な場面を想定して練習する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	TOEIC対策Ⅳ		（ NKT24D ）
講義名（コード）	TOEIC対策ⅣB		（ NKT24DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	TOEIC600点をを目指す。
全体の内容と概要	TOEICテストの概要を知り、基礎を復習しながら確実に問題を解けるようにする。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズの復習をし、会話文などの音読練習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	リーディングパートの模試問題を解く	リーディングパートの模試問題を解く。
2	Part5の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part5の復習。
3	Part6の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part6の復習。
4	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
5	Part7の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part7の復習。
6	リスニングパートの模試問題を解く	模試問題Part1の復習。
7	Part1の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part2の復習。
8	Part2の解答と解説が理解できるようになる	過去問題を通して自分の達成度を判断し、これからの勉強法を考える。
9	Part3の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3の復習。
10	Part3+4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part3+4の復習。
11	Part4の解答と解説が理解できるようになる	模試問題Part4の復習。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習をする。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	世界一分かりやすいTOEIC 総合模試600点突破レベル、新装版TOEIC L&R TEST 出る単特急金の1000問
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡ		（ NKT15J ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅡA		（ NKT15JA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください
履修上の注意事項等	検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる	Excelの基本（新規作成・基本用語・入力・保存） 数式の入力方法
2	効率の良いデータの入力方法 SUM関数を理解する	データ入力と関数（SUM）
3	入力したデータの編集方法を 理解できる	表作成（書式設定、表示形式、配置、罫線、挿入・削除、上書き保存）
4	縦棒グラフが作成できる	グラフ作成（縦棒グラフの作成・編集）
5	オートフィルの活用 AVERAGE関数を理解する	オートフィル練習（テキストにないもの） 基本的なワークシートの編集（復習とAVERAGE関数）
6	表作成に必要な機能を復習する	ワークシートの書式設定（表作成復習）
7	縦棒グラフ作成復習 円グラフを作成できる	グラフ作成（縦棒グラフ・円グラフの作成）
8	グラフ作成の機能の応用機能を 理解する	グラフの設定の変更（系列・種類・軸ラベル・複合グラフ作成）
9	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・円グラフ） 伸び率の計算
10	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ） 売上金額の計算
11	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	表作成とグラフ作成 実習問題 （折れ線グラフ・レーダーチャートグラフ）、SUM関数の応用方法
12	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 1
13	実習問題を作成してExcelの 活用方法を理解する	テスト範囲に合わせた練習問題 2
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスターWord&Excel2021・留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策Ⅱ		（ NKT15T ）
講義名（コード）	検定対策Ⅱ A		（ NKT15TA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する
全体の内容と概要	日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます
授業時間外の学修	資格試験を受験する場合は、授業内容のほかにプログラムなどでくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ビジネス文書の基礎知識を理解	ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める
2	ビジネス文書作成の基本を理解	作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存
3	表を活用したビジネス文書が作成できるようになる	表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定
4	図形を活用した文書作成ができるようになる	図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更
5	あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける	模擬試験 問題 1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ
6	表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解	模擬試験 問題 2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内
7	オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる	模擬試験 問題 3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて
8	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	模擬試験プログラム 模擬 1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力・段落番号の設定・保存 表の配置設定・図形の装飾
9		模擬試験プログラム 模擬 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定
10		
11		
12		模擬試験プログラム 模擬 3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存・インデント設定 表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力
13		
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	日商 P C 検定BASIC公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出)
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として問題集・模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ NKT15L ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡD		（ NKT15LD ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	秋学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・ 社会人として必要とされるマナーを習得する。・ 面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。・ 志望する企業向けの履歴書を完成させる。
全体の内容と概要	・ 講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・ 自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・ 主体性をもって、授業に取り組む姿勢

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる	【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンドラチャートの記入
2	学生時代に力を入れたことが書けるようになる	【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入
3	内的キャリアと外的キャリアが理解できるようになる	【講義】自分の内的・外的キャリアを考える方法について 【演習】自分の内的・外的キャリアについて記入
4	未来史が作成できるようになる	【講義】死ぬまでにしたいこと、3・5・10・20・30年後の設計 【演習】死ぬまでにしたいこと、未来史の記入
5	気になる業界について調査できるようになる	【講義】業界について、業界の種類、周辺の業界について 【演習】気になる業界や周辺の業界について記入し、発表（2分/人）
6	志望する企業を選択し、分析ができるようになる	【講義】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】志望する企業について、6つの視点で分析し、記入
7	競合他社について理解することができるようになる	【講義】志望する企業の競合を知り、調べる 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人）
8	志望する企業への志望動機が書けるようになる	【講義】志望動機の記入のポイント 【演習】志望動機の記入
9	履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる	【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出
10	履歴書を完成させることができるようになる	【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出
11	面接の基本が理解できるようになる	【講義】面接の基本、マナー 【演習】学生同士で練習/個別面談
12	面接のテクニックを習得できるようになる①	【講義】実際にあった面接の質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談
13	面接のテクニックを習得できるようになる②	【演習】質問例を活用し、学生同士で面接の練習/個別面談
14	後期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザインⅡ		（ NKT15L ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅡE		（ NKT15LE ）
対象学科	国際コミュニケーション学科/グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース/観光ホスピタリティコース グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容の理解	【オリエンテーション】講師紹介後期の内容について説明、心構え 【演習】進路調査 Cam-J 進路希望、希望職種、ガイダンス予約
2	インターンシップの振り返りができる	【インターンシップ】インターンシップについての復習 【演習】インターンシップの反省キャリア面談、応募先企業シート作成
3	就職活動スケジュールが理解できる	【就職情報説明】就職活動スケジュール、必要書類、スキル、準備物 【演習】キャリア面談 応募先企業シート作成
4	就職活動の計画が作成できる (1)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
5	就職活動の計画が作成できる (2)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
6	就職活動の計画が作成できる (3)	【行動計画立案】応募企業先への面接試験を想定したシュミレーション 【演習】キャリア面談 就職活動行動計画表作成
7	在留資格制度、申請について理解できる (1)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
8	在留資格制度、申請について理解できる (2)	【在留資格】就職在留資格制度、特定活動について説明、必要書類説明 【演習】在留資格変更申請書記入、準備物確認
9	就職内定先企業への提出書類について理解できる (1)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
10	就職内定先企業への提出書類について理解できる (2)	【内定書類】就職内定後の提出書類、提出方法、準備物など 【演習】内定書類記入 誓約書、内定受諾書、個人情報書類の署名捺印
11	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(1)	【研修】研修の目的、研修内容、研修への関わり方 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
12	入社前研修、オリエンテーションについて理解できる。(2)	【入社前研修】入社時書類、労働条件(給料、時間、休日、勤務地) 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
13	日本企業の仕事について理解できる。(1)	【日本の企業】1日、1か月、1年間の仕事の流れ 【演習】仕事の流儀「プロフェッショナル」視聴、感想文 キャリア面談
14	まとめと対策	【テスト】記述式 【テスト】回収
15	まとめと対策	【テスト返却】フィードバックと解説 【振り返り】講義の振り返り、まとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅡ		（ NKT15V ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅡC		（ NKT15VC ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本後能力試験N2の文法と語彙を学んでいく。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自分の困った状況が説明できる 1	文法（～きり、どころじゃない、ものの、ことに）語彙（文脈規定第1回）
2	自分の困った状況が説明できる 2	文法（～にしては、ことか）、チェック、語彙（文脈規定第12、13回）
3	友達の話に共感して 励ますことができる1	文法（～さえ～ば、ようがない、あげく）、語彙（文脈規定第14、15回）
4	友達の話に共感して 励ますことができる2	文法（～もんじゃない、だけ）、チェック、まとめ問題
5	友達の話に共感して 励ますことができる3	文法（～ばかりに、ことはない、にくらべて）、語彙（言い換え類義第1、2回）
6	友達の話に共感して 励ますことができる4	文法（～ものか、というものよ）、チェック、語彙（言い換え類義第3～6回）
7	自分の状況や決意したことを 友達に話すことができる1	文法（～ばこそ、ないことはない、だけ、もん）、語彙（言い換え類義第7、8回）
8	自分の状況や決意したことを 友達に話すことができる2	文法（～わけにはいかない、のみだ、つもり）チェック、まとめ問題、語彙（言い換え類義第9、10回）
9	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる1	文法（～から見ると、一方で、ことから、のみならず）、語彙（用法第1、2回）
10	レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる2	文法（～といった、にしたがって）、チェック、語彙（用法第3、4回）
11	レポートや論説文の説明が理解できる1	文法（～得る、に反して、に関して、反面）、語彙（用法第5、6回）
12	レポートや論説文の説明が理解できる2	文法（～上、つつある、に限らず）、チェック、まとめ問題、語彙（用法第7、8回）
13	ビジネス場面で社外の人との簡単な受け答えができる	文法（お見えになりました、ご～願えます、ご～上げ、と思います）、語彙（用法第9、10回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY!日本語能力試験N2 ドリル&ドリル文字語彙
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅱ		（ NKT16B ）
講義名（コード）	ビジネス日本語ⅡA		（ NKT16BA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	稲森 夕衣	時間数	30
成績評価教員	稲森 夕衣	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「注意する・注意を受ける」ができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする 後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
2	「頼む・断る」ことができる1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
3	「頼む・断る」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半 はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
4	「許可をもらう」ことができる1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、 モデル会話を理解する。
5	「許可をもらう」ことができる2	前半は前回学習した語彙や会話を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半 はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
6	「アポイント」をとることができる1	6課との区別をしながら許可をもとめる場面の違いについて理解する
7	「アポイント」をとることができる2	面識がある人、面識がない人にアポイントをとる
8	「アポイント」をとることができる3	提案する表現を学習する、約束を変更する表現を学習する。 ロールプレイ
9	他社や企業に「訪問する」ことができる1	受付で取次を頼む、名刺をうけとる、名刺の受け取り方を学ぶ
10	他社や企業に「訪問する」ことができる2	丁寧な言葉で、その場を退出する表現を学ぶ
11	今まで学習した表現を使って会話できる1	インターンシップ参加の仕方、メールの出しかた
12	今まで学習した表現を使って会話できる2	面接時の立ち振る舞い
13	第1回～第12回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	ビジネス日本語30時間
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅱ		（ NKT16D ）
講義名（コード）	日本語資格対策ⅡB		（ NKT16DB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	榊原 倫代	時間数	30
成績評価教員	榊原 倫代	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。
授業時間外の学修	読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する1	読解：【対比】ほかのものと比べる1 聴解：実際の試験を理解する1 課題理解・ポイント理解
2	文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する2	読解：【対比】ほかのものと比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答
3	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ1	読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解
4	文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ2	読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる
5	文章の仕組みを理解するために 何を何にたとえているかつかむ1	読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ
6	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くこと ができる。	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明 できる。	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や 対象語を探すことができる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、 文の内容を説明できる。	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言 葉を見つけることができる。	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむこ とができる。	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くこと ができる。	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N2 完全マスター聴解N2
参考文献・資料等	
備考	